



Hilton Hiroshima

ヒルトンのフラッグシップブランド「ヒルトン・ホテルズ & リゾーツ」が中国・四国地方初進出となる、ヒルトン広島を2022年9月1日に開業しました。当社ではアートコンサルタントとして、パブリックスペース・スイートルームのアートを担当しました。瀬戸内を構成する二つの美：島々と海。この二進法を軸に、瀬戸内のアーティストや伝統工芸、色彩を織り込みながら、島々と海が共存する美の世界を表現しています。

名称
ヒルトン広島

開業
2022 年 9 月

事業主
株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション

インテリア設計
ハーシュ・ベドナー・アソシエイツ



L1: Grand Lobby

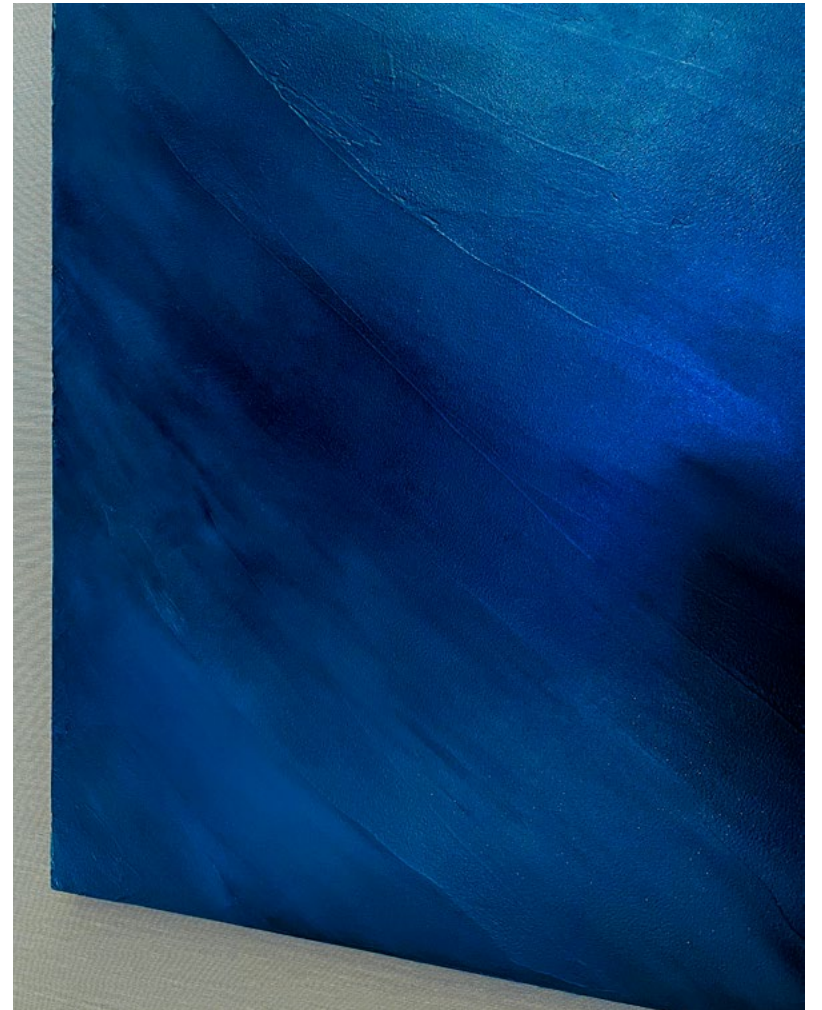
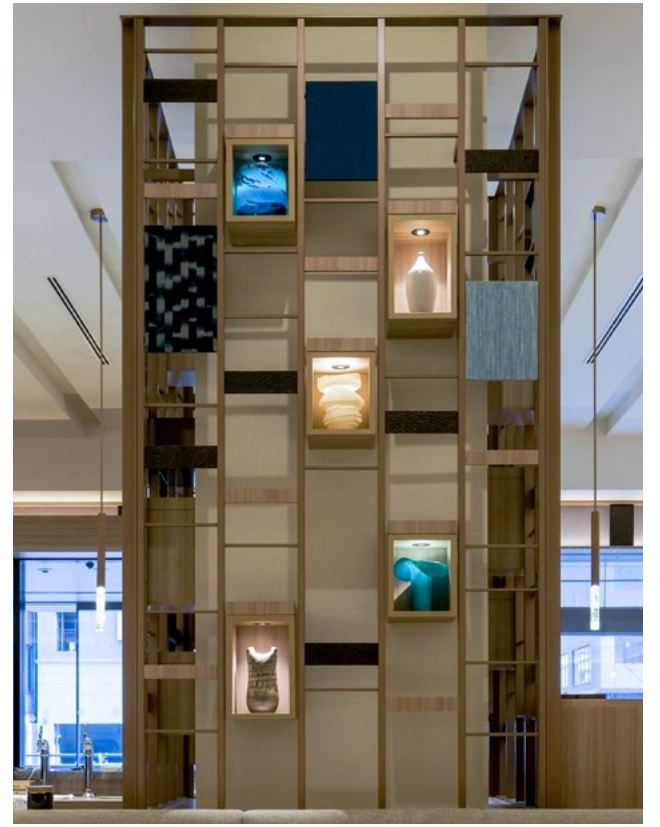


正面エントランスから入って正面、目を引くのは横幅8mに渡る立体レリーフ。宮島・厳島神社を中心とした瀬戸内一帯を俯瞰した鳥観図を基にデザインしており、島々と海が共存する美の世界を表現しています。宮島を含む山々は、3Dモデルから抽出した等高線を、忠実にデザインに落とし込んでいます。アートを至近距離で見ると、広島湾に浮かぶカキ筏（イカダ）が見えてきます。訪れた際は、是非探してみてください。



ロビー空間に点在するアクセサリは、ヒルトンの感性により選定された宮島焼や備前焼といった「瀬戸内クラフト」のショーケースとしています。ELV前には、瀬戸内の植物から抽出された顔料を用いた左官壁を配置し、この地から生まれた本物の青によって、ゲストを上層階へ誘導します。





L2, L3: Banquet Floors

インテリアデザインが、鯉城に鯉が泳ぐ「日本的風景」をモチーフとしていること、またバンケット・会議室の部屋名が、広島に流れる川の名称を引用していることから、鯉が泳ぐ日本画を空間の中心に配置。日本画を正面に、左手に鯉城に咲く紅葉の赤、右手に川が流れる青の世界を作り込みました。





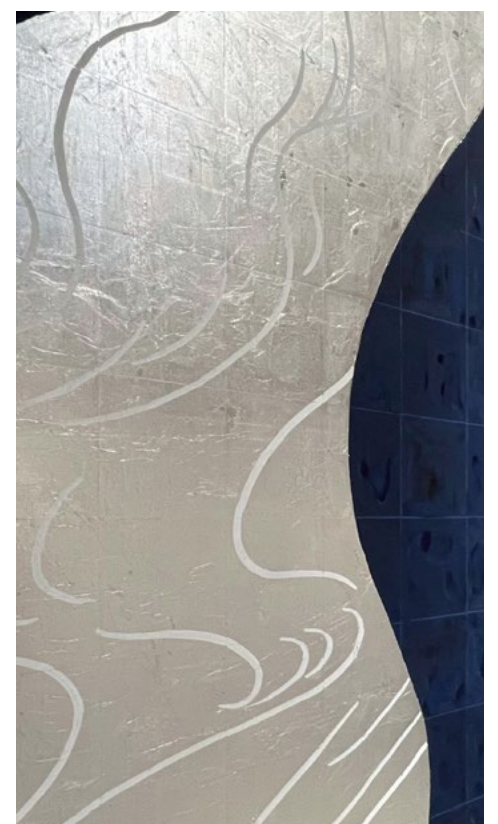
非常に高い天高と、木枠に切り取られた床の間のような空間特性を活かした紅葉の作品は、掛け軸を模した三連作としています。



青色の2点組作品は、型染めと呼ばれる伝統的な染色方法を用いながら、どこか民藝を感じさせるような風合いを特徴とし、その日本的な空間・色彩感覚、工芸美をゲストへ伝えています。



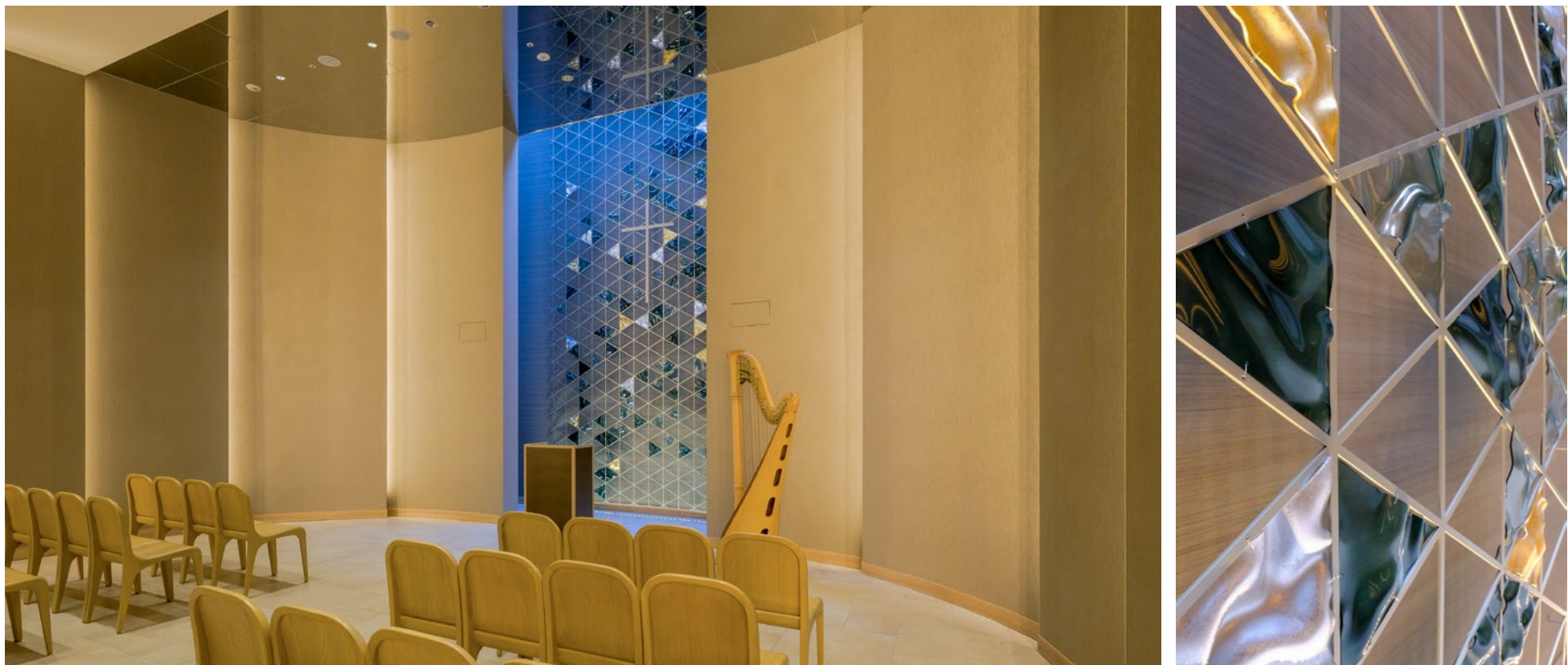
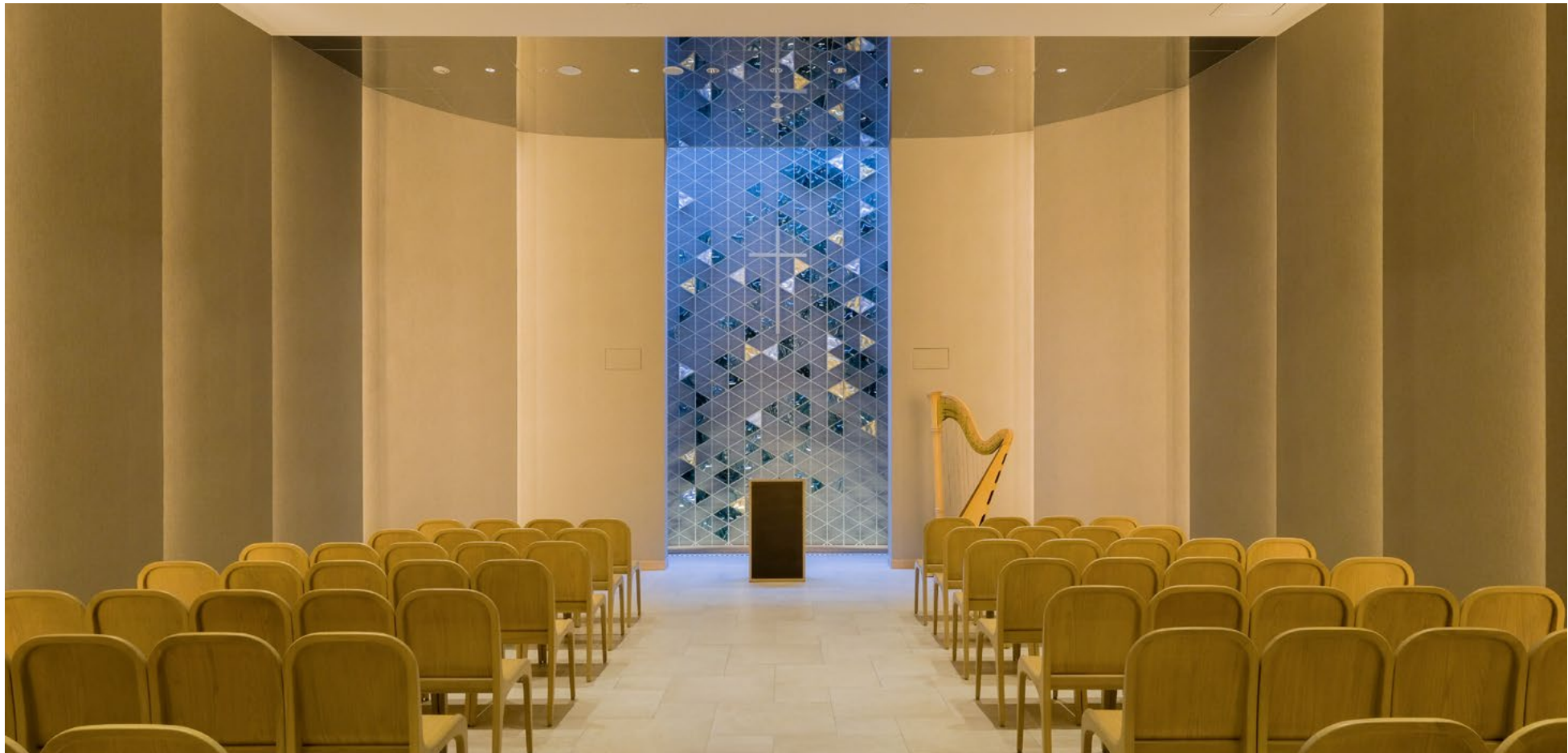
3Fには広島城の文化財「広島城下絵屏風」の構図を引用し、広島県に流れる六河川を海側から俯瞰するように描写しています。

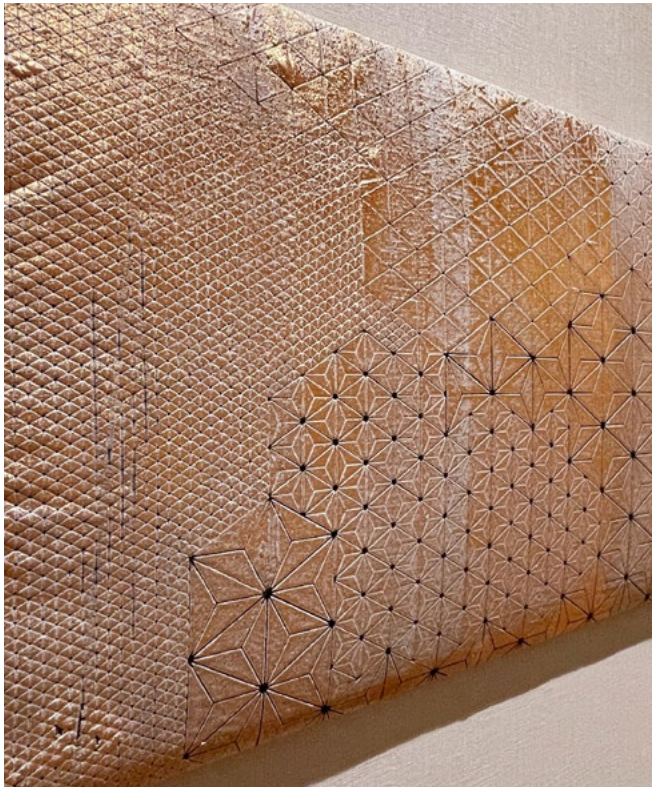
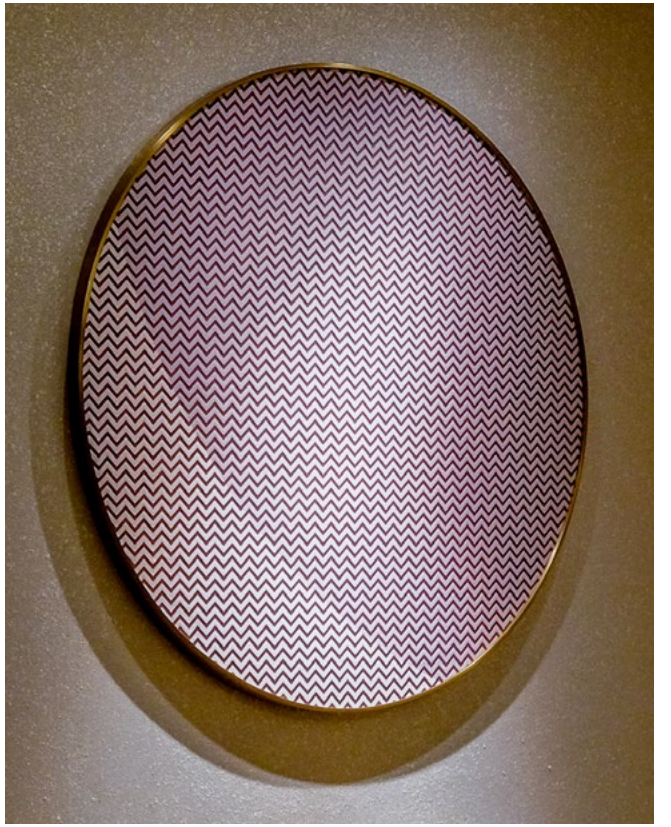




L4: Chapel

空間のコンセプトは鳴り響く琴の音。チャペル正面のアートスクリーンは、広島県の伝統工芸である福山琴の裏面に施された「麻型彫り」をデザインの基調としています。空間全体に琴の音が響き渡るようなイメージで、約 150 枚の亚克力ピースが空に舞い上がるようなデザイン・インストールを行いました。ゴールド・シルバーは地元広島 の箔押し業者により、一つ一つ手作業で製作されています。チャペル空間の外にも福山琴の「綾杉彫り」や麻型彫りが隠されています。フロア全体に響き渡る琴の音を探してみてください。





L5: Spa

Spa エリアは宮島の赤を基調に、潮汐の変化によって海面に映り込む厳島神社の異なる「赤」、昼夜で変わる厳島神社の赤、旋状に紅葉が広がる宮島・大聖院の赤を抽象化し、時間によって変化する色彩美をアートに再現しています。

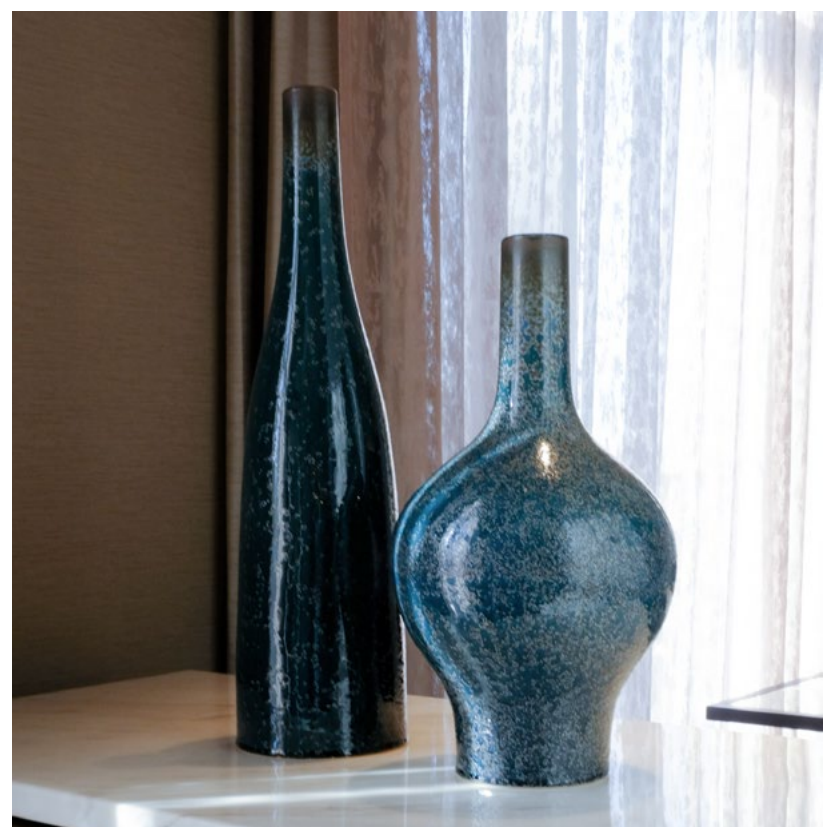
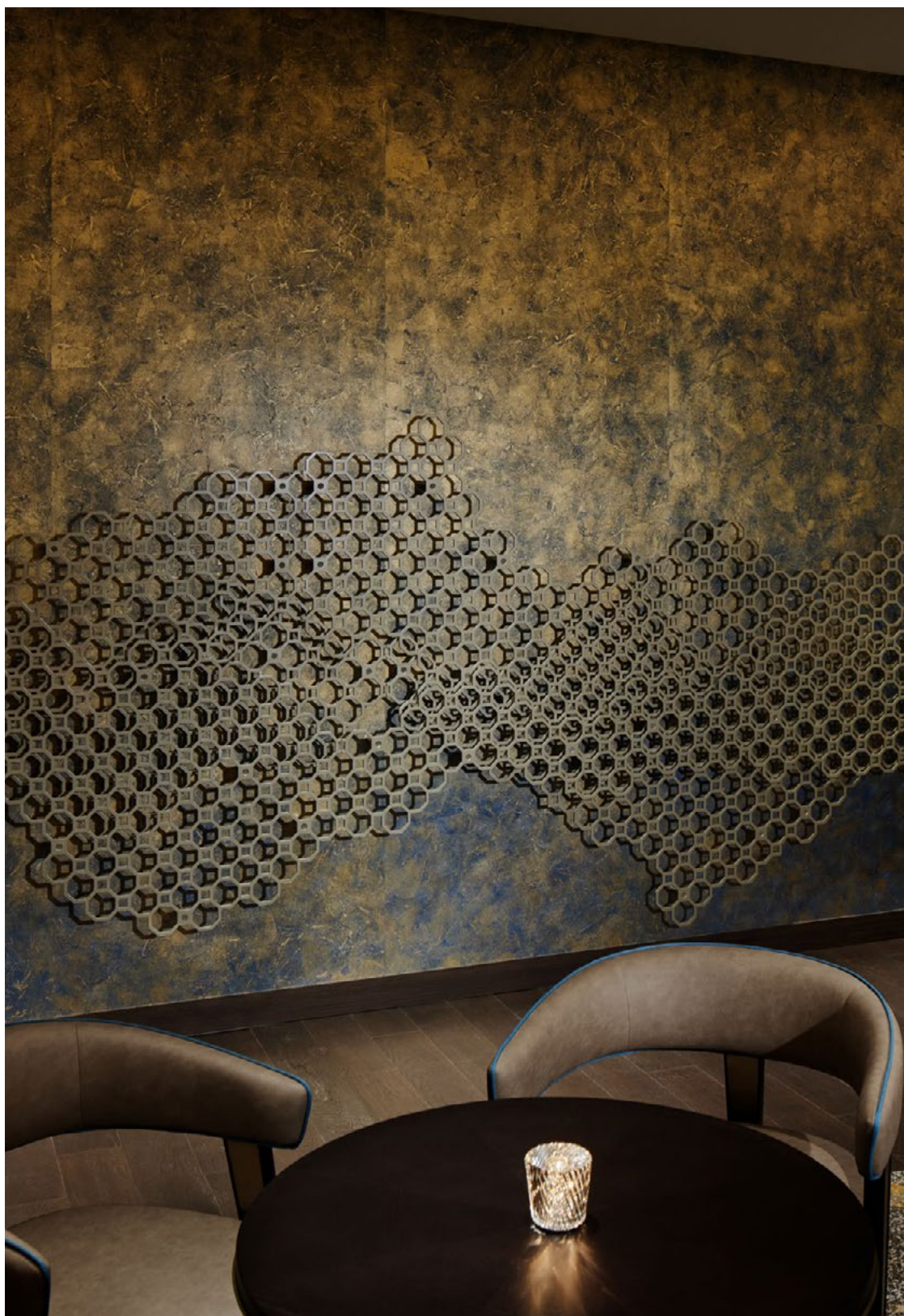


L6: Restaurant and Bar

レストランに入って目に入るのが波の形を大胆にくり抜いたメタルスクリーン。天井から吊り下げられた織物同様、鳴門海峡の波紋をトレーシングし、水のような抜け感を実現しました。レストランサインを正面に、左側に日本料理の「赤の世界」、右側にウエスタンキッチンの「青の世界」とし、紅葉と海・色彩の対比で空間コンセプトを表現しています。

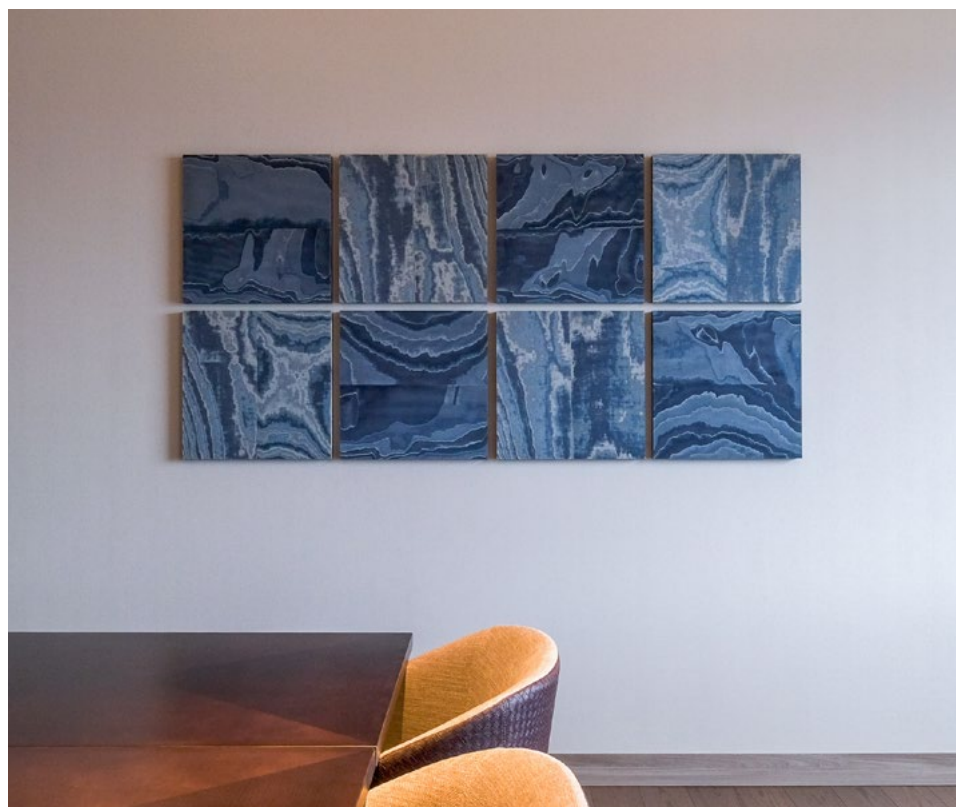






L22: Club Lounge

22Fのクラブラウンジには、瀬戸内のクラフトと、キッチンウェアのコレクションをホームライクにディスプレイしています。窓の外から見える海を見ながら、ゆったりと流れる時間を楽しんでいただければ幸いです。



Guestroom



ICA

Interculture Art Inc.

ICA Bldg. 4F, 560-2 Waseda
-Tsurumakicho,
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0041

t: +81(0)3-3207-3911

e: contact@intercultureart.com

intercultureart.com

©Interculture Art Inc.